

意味の変化

言葉の意味や形は、時代とともに変化していく。変わり行くことが言葉の本質だが、本来の意味を正しいと捉えたと、最近よく使われる意味で使った場合は、「誤用」ということになる。ここでは、意味の変化が生じつつある典型的な語を、いくつか紹介する。

【雨模様】

用例 外は雨模様だ。

本来の意味 雨が降りそうな空の様子。

最近の意味 (小) 雨が降っている様子。

【割愛】

用例 時間の都合で以下は割愛します。

本来の意味 惜しいと思うものを手放す。

最近の意味 不必要なものを切り捨てる。

【号泣】

用例 悲報を聞いて号泣する。

本来の意味 大声をあげて泣くこと。

最近の意味 (声をあげずに) 激しく泣くこと。

【失笑】

用例 彼の発言に失笑した。

本来の意味 思わず笑ってしまうこと。

最近の意味 笑いも出ないくらいあきれること。

【ぞつとしない】

用例 この映画はぞつとしないものだったね。

本来の意味 おもしろくない。感心しない。

最近の意味 恐ろしくない。

【なし崩し】

用例 借金をなし崩しにする。

本来の意味 少しずつ片づけていくこと。

最近の意味 都合よく、うやむやにすること。

【煮詰まる】

用例 長時間の議論で計画が煮詰まった。

本来の意味 結論が出る状態に近づく。

最近の意味 結論が出せない状態になる。

【破天荒】

用例 破天荒の大事業。

本来の意味 誰もしたことのないことをすること。

最近の意味 生き方が型破りであること。

【ぶぜん(憮然)】

用例 ぶぜんたる面持ち。

本来の意味 「不満だが、自分としてはどうしようもない」という気持ちで黙っている様子。

最近の意味 ぶすつとして不機嫌な様子。

【やおら】

用例 やおら起き上がって背伸びをした。

本来の意味 ある動作をゆつくりと始める様子。

最近の意味 ある動作を急に始める様子。

【役不足】

用例 彼には役不足の仕事だ。

本来の意味 力量に対して役目が軽すぎること。

最近の意味 力量に対して役目が重すぎること。